

焼岳における局地水準測量 (1977—1991) *

名古屋大学理学部

地震火山観測地域センター

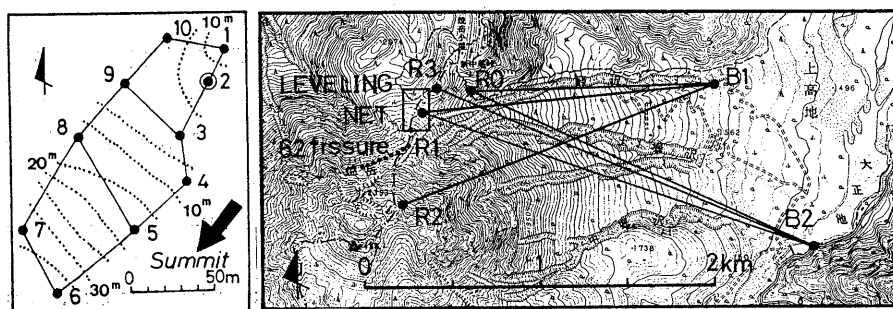
名古屋大学理学部では、1977年以来焼岳の中尾峠において地殻変動観測を継続している。1962年の噴火に際して開口した割れ目の近傍で、およそ70 m×190 mの範囲に10点のベンチマークを設置して局所的水準網を作っている。それに加えて、1985年からはもう少し広い地域をカバーする光波測距も実施している。

第1図にあるように、局所的水準網の位置は、焼岳山頂の北北東800mの所にあり、1962年に出来た fissure に近い。点線はBM 9に対する相対的な等高線である。

第2図は、各ベンチマークにおける上下変動をBM 2を仮の不動点として示してある。BM 4, 5, 7, 8に現われている1980—85年の間の山頂上がりの変動は、1986年以来停止したままである。ただし、BM 6を局地的な沈降として議論から省いた(木股他, 1987, 1988)。

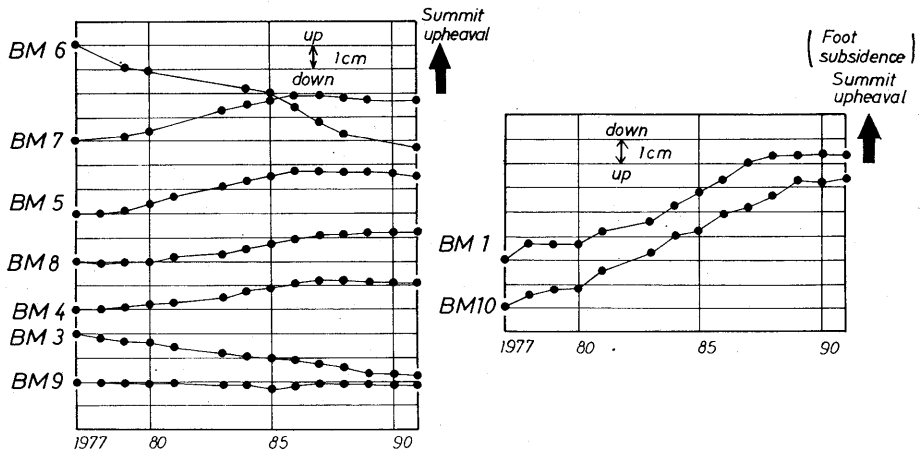
第3図は、基線長(1.5—2.5 km)の変動で概して小さく、B 2—R 1(水準網内)の変化が、6 cm/10 yr と大きかったが、それも1987年以降停滞している。

結論：中尾峠における地殻変動は、上下・辺長変化とも1986年以降は、それ以前と比べて停滞している。

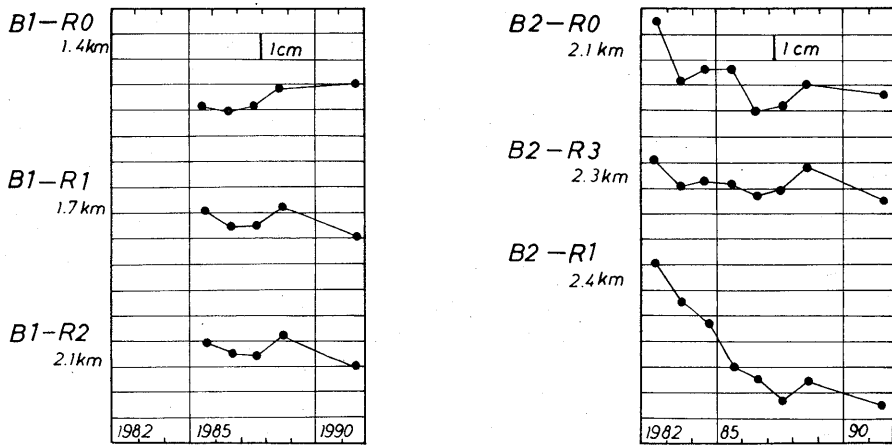


第1図 焼岳における局所水準網と光波基線網の位置

* Received 15 July, 1992



第2図 各ベンチマークの上下変動 (BM 2を仮不動点としている)



第3図 各基線における基線長の時間変化

参 考 文 献

- 木股文昭他 (1987) : 焼岳における局地水準測量 (1977 - 1986), 地震, 40, 341 - 347.
 木股文昭他 (1988) : 焼岳における辺長測量 (1982 - 1987), 火山, 33, 87 - 90.